



和歌山県串本町から得られた標本に基づく 本州初記録のキテンハタ *Epinephelus bleekeri*

脇本総志¹・國島大河²

Author & Article Info

¹和歌山県立向陽中学校（和歌山市）

soshiwakimoto@gmail.com

²和歌山県立自然博物館（海南市）

kunishima_t0001@pref.wakayama.lg.jp (corresponding author)

Received 11 January 2021

Revised 18 January 2021

Accepted 18 January 2021

Published 19 January 2021

DOI 10.34583/ichthy.4.0_22

Soushi Wakimoto and Taiga Kunishima. 2021. *Epinephelus bleekeri* (Serranidae) from Wakayama Prefecture, Japan: first specimen-based record from Honshu. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 4: 22–25.

Abstract

A single specimen of the Duskytail Grouper, *Epinephelus bleekeri* (Vaillant, 1878) was collected by fishing from Kushimoto Town, located in southern part of Wakayama Prefecture, Japan. This species is widely distributed in the Indo-West Pacific, and in Japanese waters, it was previously known from Honshu (Kanagawa and Mie prefectures), Shikoku (Ehime and Kochi prefectures), Kyushu (Miyazaki and Kagoshima prefectures), and the Ryukyu Islands (Tanega-shima, Yaku-shima, and Amami-oshima islands, and Yaeyama Islands). However, Japanese records of the species based on specimens have been restricted to the south coast of Satsuma Peninsula (Kagoshima Prefecture), Tanega-shima and Amami-oshima islands, and Yaeyama Islands, and other records were based on photographs and/or reliable observations. Thus, the present specimen, described in this study, represents the first specimen-based record from Honshu, as well as the first record from Wakayama Prefecture.

キテンハタ *Epinephelus bleekeri* (Vaillant, 1878) は、インド・西太平洋に分布するハタ科魚類であり (Randall and Heemstra, 1991), アンダマン海から得られた2個体に基づき, 久新ほか (1977) によって和名キテンハタが提唱された後, 藤原ほか (2015) によって日本国内から初めて本種が記録された。日本国内において, キテンハタは黒潮の流路にあたる相模湾から八重山諸島にかけて広く記録されている一方, 標本に基づく本種の記録は少なく, これまで鹿児島県薩摩半島南岸, 大隅諸島種子島, 奄美大島, および

沖縄県八重山諸島からのものに限られていた (藤原ほか, 2015; 上城ほか, 2019)。

2020年10月24日に和歌山県串本町二色付近の堤防で1個体のキテンハタが釣獲された。本標本はキテンハタの標本に基づく本州初かつ和歌山県からの初記録となるため, ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は, Randall and Heemstra (1991) に従った。標準体長については, デジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位で計測し, 本稿では体長または SL と表記した。標本については, 10% ホルマリン液で固定し, 70% エタノール液に置換後, 保存した。色彩の表記に関しては, 財団法人日本色彩研究所 (2007) に準拠した。本報告に用いた標本は, 和歌山県立自然博物館 (WMNH-PIS) に保管されており, 生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

Epinephelus bleekeri (Vaillant, 1878)

キテンハタ

(Figs. 1–3)

標本 WMNH-PIS12146, 体長 68.9 mm, 全長 85.8 mm, 和歌山県串本町二色 (33°28'N, 135°46'E), 2020年10月24日, 釣り, 脇本総志。

記載 背鰭条数 XI, 17; 臀鰭条数 III, 8; 胸鰭条数 18; 腹鰭条数 I, 5; 側線有効鱗数 49; 縦列鱗数 114; 鰓耙数 10 + 16。体各部に対する体長の割合: 頭長 39.0; 体高 29.4; 体幅 17.3; 背鰭前長 36.8; 臀鰭前長 66.7; 腹鰭前長 38.7; 背鰭基底長 59.9; 臀鰭基底長 18.8。体各部に対する頭長の割合: 吻長 19.4; 上顎長 45.4; 眼後長 57.0; 眼窩径 22.0; 両眼間隔 15.7; 尾柄高 26.1; 尾柄長 41.9; 第1背鰭棘長 16.3; 第2背鰭棘長 28.9; 第3背鰭棘長 32.8; 第4背鰭棘長 33.0; 第5背鰭棘長 33.7; 第6背鰭棘長 33.4; 第7背鰭棘長 32.9; 第8背鰭棘長 33.0; 第9背鰭棘長 31.5; 第10背鰭棘長 31.5; 第11背鰭棘長 31.3; 最長背鰭棘長 33.7; 第1臀鰭棘長 15.9; 第2臀鰭棘長 31.3; 第3臀鰭棘

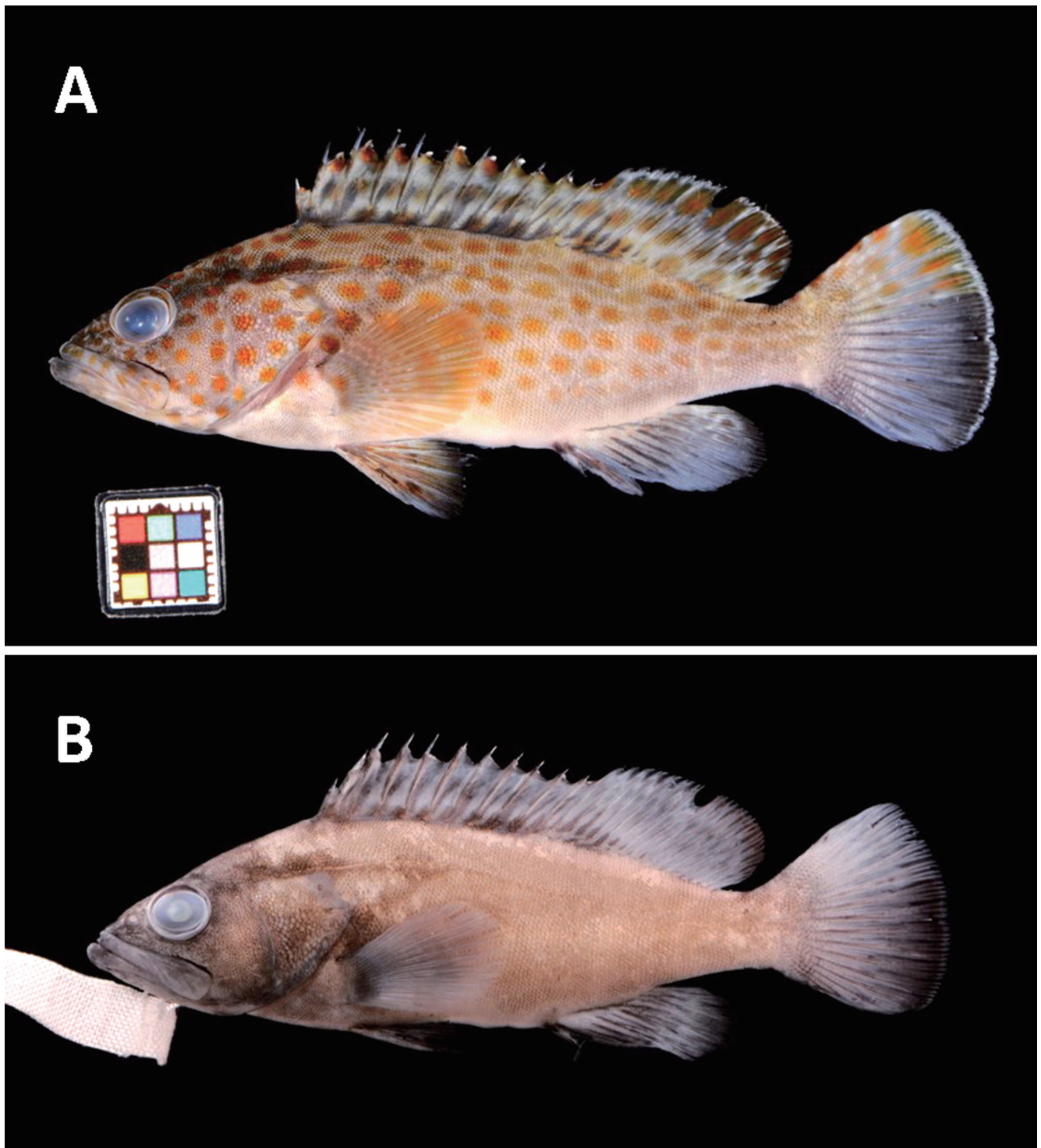


Fig. 1. Fresh (A) and preserved (B) specimen of *Epinephelus bleekeri* (WMNH-PIS12146, 68.9 mm SL) from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan.

長 31.1；最長臀鰭棘長 31.3；腹鰭棘長 32.6；腹鰭長 45.7；
胸鰭長 63.7；尾鰭長 59.0.

体は側扁し、尾柄部は強く側扁する。吻は尖り、体背縁は吻端から背鰭起部前端にかけて上昇し、そこから尾鰭基底までの間で緩やかに下降する。体腹縁は吻端から腹鰭起部前端まで緩やかに下降し、腹鰭基底後端から臀鰭基底前端にかけて体軸とほぼ平行にはしる。その後、臀鰭基底前端から尾鰭基底までの間で緩やかに上昇する。体高は背鰭第 5 棘基部直下で最大で、これは体の 1/2 より少し前に位置し、体高に対する体長の比率は 3.4。眼と瞳孔は共に

正円形。鼻孔は 2 対で、前鼻孔は正円形、後鼻孔は上下に長い楕円形、前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、前鼻孔後縁には皮弁が存在する。口は端位で、下顎が上顎より突出し、上顎後端は眼の後端直下に位置する。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状であり、前鰓蓋骨下縁と主鰓蓋骨後縁は円滑である。肛門は背鰭第 10 棘基部直下に位置する。上顎、鋤骨、口蓋骨および下顎には小円錐歯が密生する。体は胸鰭腋部と両唇を除いた全ての部分が小さな櫛鱗で被われる。側線は完全で、主鰓蓋骨上端から尾鰭基底にかけて体背縁と平行にはしる。胸鰭基底上端は背鰭第 2, 3 棘間直下に、胸鰭基



Fig. 2. Live individual of *Epinephelus bleekeri* (WMNH-PIS12146, 68.9 mm SL) in aquarium tank.

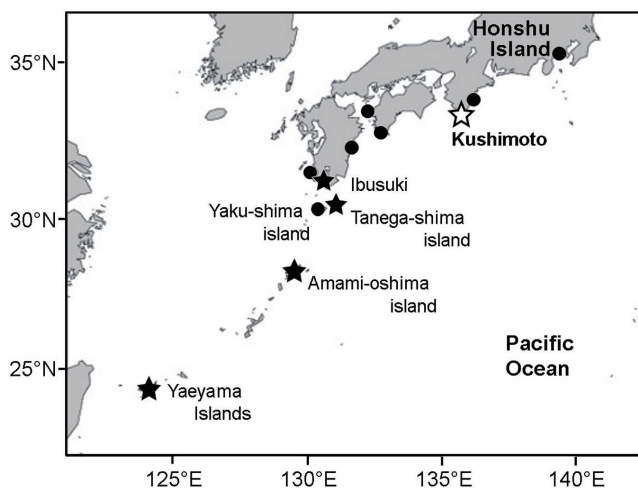


Fig. 3. Distributional records of *Epinephelus bleekeri* in Japanese waters. Solid and open stars indicate previous and new specimen-based records, respectively. Circles indicate previous records based on photographs and/or reliable observations.

底下端は主鰓蓋骨後端の直下に達する。胸鰭後縁は丸みを帯び、胸鰭後端は背鰭第9棘直下に位置する。胸鰭長に対する頭長の比率は1.6。背鰭起部は主鰓蓋骨上端の直上、背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上より後方に達する。背鰭軟条部は丸みを帯び、背鰭全体に対する割合は1/3より大きい。腹鰭起部は背鰭第3棘起部直下に、腹鰭基部後端は背鰭第5棘起部直下にそれぞれ位置する。たんだ腹鰭後端は背鰭第7棘起部直下に達する。腹鰭長に対する頭長の比率は2.2。腹鰭最後軟条は体と鰭膜でつながる。臀鰭起部は背鰭第1軟条基部直下に、臀鰭基部後端は背鰭第11軟条基部直下に達する。臀鰭軟条は長く、臀鰭最長軟条長は臀鰭棘長の約3/2。尾鰭は円形。

色彩 生鮮時 (Fig. 1A), 体は全体的にアイボリー色で、腹面を除く体側、頭部、および上顎にマリーゴールド色の

斑が散在する。体側の斑は下部のものを除き瞳孔大で、体側下部、頭部、および上顎の斑は瞳孔よりも明らかに小さい。背鰭と尾鰭上部1/3は藤鼠色で瞳孔大のマリーゴールド色斑が並ぶ。尾鰭の下部2/3は一樣に藤鼠色で、尾鰭後縁は白色線で縁取られる。臀鰭は藤鼠色で、基底部はアイボリー色。腹鰭は藤鼠色で、鰭条に沿って4本のマリーゴールド色線がはいる。胸鰭は一樣にうすいオレンジ色。生時、体色は生鮮時とほぼ同様だが、より褐色が強く、緊張時には7本の不明瞭な白色横帯がはしる (Fig. 2)。固定後の色彩 (Fig. 1B) は、体と頭部は全体的にうすいブラウンで、腹鰭と尾鰭下部2/3の後部を除く各鰭はうすい灰色からやや黒色がかった灰色で、腹鰭と尾鰭下部2/3の後部は黒色。

分布 インド・西太平洋に広く分布し (Randall and Heemstra, 1991), 日本国内においては、和歌山県串本町、鹿児島県指宿市、大隅諸島種子島、奄美諸島、沖縄県八重山諸島から標本に基づく記録が報告されている (藤原ほか, 2015; Nakae et al., 2018; 上城ほか, 2019; 本研究)。また、画像あるいは信頼性のある目視に基づき、神奈川県相模湾、三重県の熊野灘、愛媛県の宇和海、高知県西部、宮崎県北部、鹿児島県の薩摩半島西岸、および大隅諸島の屋久島からも記録されている (藤原ほか, 2015; Motomura and Harazaki, 2017; 日比野・長野, 2020)。

備考 和歌山県串本産の標本は、背鰭が11棘16軟条、臀鰭が3棘8軟条、側線有効鱗数が49、縦列鱗数が114、鰓耙数が10+16、体高に対する体長の比率が3.4、腹鰭長に対する頭長の比率が2.2、腹面を除く体側・頭部・背鰭・尾鰭上部1/3に黄色またはオレンジ色の斑点が散在すること、および尾鰭下部2/3が濃い灰色であることなどの特徴が、Randall and Heemstra (1991) が示した *Epinephelus bleekeri* の標徴と一致したため、本種と同定された。ただ

し、本標本では胸鰭長に対する頭長の比率が 1.6 であり、Randall and Heemstra (1991) が示した範囲 (1.65–2.10) と一致しなかった。これは、本標本の体長 (68.9 mm) が Randall and Heemstra (1991) の観察した標本の体長範囲 (21 個体, 116–517 mm) よりも小さいことに起因すると思われる。

国内における本種の分布は、分布の項と Fig. 3 で示した通りで、標本に基づく北限記録は鹿児島県指宿市であった。以上を踏まえると、和歌山県串本町で得られた個体は、標本に基づく *E. bleekeri* の本州初記録かつ和歌山県からの初記録となる。紀伊半島の先端部に位置する串本周辺域は、暖流である黒潮の影響を多大に受けるといわれており、卵や仔稚魚が南方より運搬されて串本周辺で成長したと考えられる熱帯性魚種の出現例もある (例えば、ナンヨウボウズハゼ *Stiphodon percnopterygionus* Watson and Chen, 1998; 中尾・平嶋, 2012)。本研究で釣獲されたキテンハタはその体長から未成魚だと考えられるが、和歌山県における本種の出現が黒潮による運搬で無効分散した偶発的なものか、あるいはすでに定着し再生産しているためかを明らかにするには、今後周辺海域において潜水調査や市場調査を継続して行う必要があるだろう。

謝 辞

本報告を行うにあたり、坂東俊哉氏 (和歌山県和歌山市在住) には標本の採集でご尽力頂いた。藤原恭司氏 (鹿児島大学大学院連合農学研究科) には文献を提供していただいたうえ、査読者として原稿の改訂について有益なご助

言を頂いた。また、和歌山県立自然博物館の皆さまには標本作製、登録、原稿執筆においてご協力いただいた。ここに感謝の意を表する。

引用文献

- 藤原恭司・高山真由美・桜井 雄・本村浩之. 2015. 日本におけるハタ科魚類 *Epinephelus bleekeri* の記録と分布状況. タクサ, 39: 40–46. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/taxa/39/0/39_KJ00010039464/_pdf/-char/ja)
- 日比野友亮・長野 淳. 2020. 三重県熊野灘で水揚げされた熱帯・亜熱帯性魚類. Niche Life, 7: 28–33. (https://media.niche-life.com/series/007/Niche007_07.pdf)
- 久新健一郎・尼岡邦夫・仲谷一宏・井田 斉. 1977. インド洋の魚類. 海洋水産資源開発センター, 東京. 392 pp.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima Island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new species. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1–183. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2017_02_Fishes_Yakushima_highres.pdf)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, 52: 205–361. (<https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/papers/290248.pdf>)
- 中尾克比古・平嶋健太郎. 2012. 紀伊半島初記録のナンヨウボウズハゼ *Stiphodon percnopterygious* [sic] Watson et Chen. 南紀生物, 54: 50–51.
- Randall, J. E. and P. C. Heemstra. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. Indo-Pacific Fishes, 20: 1–332, pls. 1–41.
- 上城拓也・平田堅固・本村浩之. 2019. 薩摩半島南端から得られた標本に基づく九州初記録のキテンハタ. Nature of Kagoshima, 45: 295–296. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-051.pdf)
- 財団法人日本色彩研究所. 2007. 改訂版 色名小辞典. 日本色研事業株式会社, 東京. 90 pp.